

【準決勝】

暁星国際 vs 日体大柏

立ち上がりは両チーム、ロングボールで相手の様子を探る展開。日体大柏はフィジカルとスピードを活かした攻撃が目立つ。11分、暁星国際が得たCKを跳ね返したカウンターから1本のパスで抜け出した日体大柏⑩古谷がPA内でクロスを上げると、暁星国際DFの手にあたりPK獲得。そのPKを⑩古谷が決め先制する。暁星国際は1-4-3-3で相手のビルドアップに対し前線からのプレスでカウンターを狙う。対する日体大柏は1-4-4-2のシステムで両SBがタイミング良く内側に入り、SHが幅を取りながら前進を図る。暁星国際はMF⑧浦野を起点にFW⑩劉のスピードとLWG⑪浅野のドリブル突破やショートカウンターでチャンスを作るも、日体大柏の粘り強い守備の前になかなか得点を奪えず前半を終える。

後半開始後、暁星国際は果敢にシュートの機会をつくるも48分、バイタルエリアでの2トップの関係で⑪吉田へ展開しドリブルからのカットインからのシュートで日体大柏が追加点を奪う。対して暁星国際は、コンビネーションからサイドを崩しクロスを上げるが、PA内に枚数を割けず、日体大柏の冷静なクロス対応に阻まれる。71分、途中出場の暁星国際MF⑫南部がスピードのあるドリブル突破でファールをもらおうと、そのFKを⑬日向野がゴールのファーサイドに流し込むようにゴール。暁星国際に流れが傾きかけたが79分、日体大柏DF⑬のロングボールに抜け出した⑩古谷がGKとの1対1を冷静に流し込み追加点。スピードとフィジカルを活かし、冷静な試合展開を作った日体大柏が3-1で勝利し、昨年に続き決勝に駒を進めた。

千葉経済大学附属高等学校 奥寺 亮介

習志野 vs 専修大松戸

両チームともに中盤をダイヤモンド形にした1-4-4-2システムでスタート。序盤は中盤で激しいセカンドボールの拾い合いとなる。お互いに拾ったボールをシンプルにDFライン背後に供給するが収まらず、攻撃に厚みをかけられない時間が続く。前半飲水後、専修大松戸がMF⑥池田を中心にセカンドボールを回収する回数が増え、2トップを起点に中盤4枚が近い距離間でテンポよくボールを動かし始める。アタッキングサードではMF⑦志賀の個人技とFW⑪守興、FW⑨塚越、MF⑩南のコンビネーションでゴールに迫る回数を増やし、徐々に主導権を握る。前半アディショナルタイム、左サイドの深い位置で得たスローインから3人目で抜け出したMF⑦志賀がサイド深い位置からゴール方向へのパス。最後はFW⑪守興が滑り込みながらプッシュし先制。

後半、習志野はスピードのあるFW⑫山本を投入し、高い位置をとる専修大松戸DFライン背後を狙ったランニングを増やし、カウンターからチャンスを作ろうとする。すると51分、ミドルサード中央から供給された斜めのボールにFW⑫山本が抜け出し、スピードに乗ったドリブルからPA内に侵入し、ゴールをアシスト。習志野が同点に追いつくも、中盤をコンパクトにする専修大松戸がボールを拾いペースを握り続ける。直後の56分、MF⑧石井が左サイドから縦方向のドリブルでPA内に侵入し、折り返したボールのこぼれ球を最後はMF⑦志賀が押し込み追加点。さらに66分には右サイドクロスからMF⑦志賀が鮮やかなダイレクトボレーで合わせ点差を広げる。専修大松戸が相手を押し込む中、習志野はGK①大吉とDFラインが体を張って粘り強くゴールを守りカウンターで追いつこうとするも、なかなかボールを落ち着かせる時間を作れない。最後までスピーディーな攻防を繰り広げ、懸命に走り抜いた両チームだったが、そのまま専修大松戸が勝利。2大会ぶりの関東大会出場を決めた。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人

【決勝】

日体大柏 vs 専修大松戸

準決勝から中1日でのゲームとなった決勝戦。

日体大柏はビルドアップしながら前進を図り、長身のFW⑮オウイエ ウィリアムとFW⑨平野のポストプレー、幅をとるMF⑩古谷とMF⑪吉田を起点に攻撃する。対する専修大松戸は運動量豊富なFW⑰上野とFW⑳遠山の2トップとダイヤモンド型になった中盤4枚が前線から連動してプレスをかけ、前向きにボールを奪いカウンターを目指したい。しかし、対人に強い日体大柏のDF③古金谷とDF⑤柴田の堅い守備により、前線でボールを収めさせない。13分、日体大柏は中盤でセカンドボールを回収し素早くサイドに展開。ドリブルで仕掛けるMF⑩古谷からのスループアスにFW⑮オウイエ ウィリアムが反応して斜めに走り込みながら落ち着いてシュートを決め先制。

後半開始早々の41分にも日体大柏が追加点をあげ点差を広げる。追いつこうとする専修大松戸は相手陣地で果敢にプレスをかけ続けボール奪取からリズムを取り戻したい。対する日体大柏はMF⑥植木と⑦相原が入れ替わりながらDFライン付近で数的優位を作ることで前進を図ろうとする。さらにDF③古金谷とGK⑫原田の縦方向、斜め方向への正確なロングフィードも効果的に加わる。日体大柏は2トップと両SHの4枚が、前がかりになった専修大松戸の間延びしたライン間でボールを収めてためを作り、SBが積極的に攻撃参加することで攻撃に厚みをつける。その後も日体大柏は長短のパスを織り交ぜながら専修大松戸を押し込み、56分と72分にも追加点をあげそのまま試合終了。日体大柏の大会2連覇となった。

千葉県立松戸馬橋高等学校 佐藤 研人